

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A・B中学校)

- ・トリプルA(安全・安心・あたたかい)という標語を学校で掲げている。また、トリプルAに関するメッセージを各学級担任が、朝の学活等を活用し伝えている。
- ・夏休みに支援員を配置し、宿題等に取り組むことができる宿題教室を開室した。
- ・第2学年の職場体験の事後学習で、事業所ごとに体験内容のプレゼン資料を作成し、発表会を開催した。文化祭では2つのグループが主体的に学習内容を整理し、学校全体で発表を行った。
- ・入学(クラス替え)時に、名刺の作成及び名刺の交換を通し、自己紹介等をする構成的グループエンカウンターの活動を行った。
- ・1組(特別支援学級)では、サマースクールとして、夏休みの1週目にプール等の活動を自主参加で行った。

【取組2】(A・B中学校)

- ・生徒会役員の生徒が朝のあいさつ運動を企画し、学級委員や生活委員の生徒と連携して、毎朝校門で登校生徒にあいさつを行っている。
- ・ハートウォーミングB中という、生徒会役員が主導・運営する取組を行っている。生徒会役員が全校生徒に募集を行い、3分の1程度の生徒が自主的に活動に参加している。活動の内容は、朝の挨拶運動や昼休みの花の水やりである。
- ・文化祭にて、第7学年の有志生徒で、演劇を発表した。発表に向け、劇に出る生徒、スポットライトや照明等の様々な自身の担当をもった生徒が練習を行った。
- ・地域とのつながりとして、生徒会役員を主体として、地域の高齢者にレクリエーションとして生徒会が主催でクイズを行った。また、地域清掃も実施した。

【取組3】(C中学校)

第7年社会科担当教員が、プリント課題の取組の際、1人ではなく、4・5人のグループで活動させている。また、プリントに取り組む前に、あらかじめ回答する生徒を指名し、突然指名され答えられないで自信を失う生徒が生まれないようにしている。生徒相互の教え合いにより、授業が分からず置いていかれる生徒が少なくなった。

【取組4】(A中学校)

生徒支援部会の会議にて、「研修キット」に加えて、「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果を活用した研修を行い、不登校生徒の現状に関する正しい認識を共有した。また、学校が対応していくべき指針を確認することができた。こうした結果を踏まえ、今後の学校の方針について数値を根拠に考えていくことの重要性を認識した。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（D中学校）

毎週金曜日 2 時間目に実施。校長、副校長、生活指導主任、養護教諭、各学年の教員 1 名、SC、校内別室指導支援員、不登校対応巡回教員で構成され、今後の支援の方向性について議論している。

また、月ごとの生徒の様子分かる一覧を共有し、生徒の変容を把握できるようにしている。

アウトリーチによる支援（E中学校）

欠席等が多い生徒を対象に、上級学校の進学に関する学校説明会を 1 学期と 2 学期に開催した。

内容は、都立高校の種類、入試制度等の情報提供である。また、同様の悩みをもつ保護者同士が自由に話し合う時間を設けることで、保護者同士のつながりができるきっかけとなった。

校内別室における支援（A中学校）

校内別室の生徒同士がつながる機会を提供した。具体的には、副校長、校内別室指導支援員の指導・支援のもと、別室生徒 4 人が、4 月から稲作を共同で行った。稲の成長の様子を記録し、日記として共有させた。2 学期からは、「校内別室スポーツ TIME」を週 1 回金曜日の午後に設定し、卓球等のスポーツを行った。参加生徒は 5 時間目まで残るようになり、表情も以前より明るくなった。加えて、一般財団法人が行うコンテストに向けた協働学習も開始した。答えのない課題について、同じ別室の仲間と対話することを通し、未来や自分の周りのことを意識するきっかけを与えることができた。



デジタル機器を活用した支援（C中学校）

利用生徒が一人 1 台端末を使用し、登下校時の体調・気分、校内別室で行った活動等を教員に共有する「わたしのダイアリーログ」を整備した。

生徒が日々の活動を振り返ることや、教員が生徒のことを把握する方法が増えた。



関係機関との連携

区が運営する教育支援センター「マイスクール」の見学や、HEARTS（学校支援チーム）と生徒に関する情報交換を行った。

関係機関について理解した内容を基に、各校の支援会議等で必要な連携について提案をしている。

成果

校内別室を中心に、不登校の未然防止につながる取組を導入することができた。

また、それらの良い取組を他の巡回校にも広げることができた。

課題

校内別室を対象に新しい不登校対策を講じることができたが、生徒全体を対象とした未然防止については、一層の推進が必要である。